

令和元年秋の叙勲・褒章受章者

11月3日に叙勲受章者及び褒章受章者が発表され、以下の会員が栄に浴されました。
心よりお慶び申し上げます。

叙勲受章者の横顔



旭日双光章（弁理士業務功労）

こばやし たもつ
小林 保

学歴・職歴

昭和45年 日本大学法学部法律学科卒業
昭和53年 日本大学理工学部電気工学科卒業
（現在） エミール国際特許事務所

弁理士会歴

昭和47年 弁理士登録（7595号）
昭和62年度～昭和63年度 弁理士会常議員
平成2年度 特許委員会 副委員長
平成5年度～平成6年度 弁理士法改正特別委員会 副委員長
平成7年度 共済委員会 委員長
平成9年度 「弁理士業務の実態及び意識調査」支援委員会 副委員長
平成10年度～平成11年度 特許委員会 副委員長
平成12年度 特許委員会 委員長
平成14年度～平成16年度 知的財産支援センター 副センター長
平成18年度 関東支部 幹事
平成19年度 日本弁理士会副会長
平成20年度～平成21年度 知的財産支援センター 副センター長
平成21年度～平成22年度 知的財産支援センター センター長
平成23年度～平成24年度 日本弁理士会常議員
平成28年度～平成29年度 日本弁理士会常議員（分科会会長）

公職

平成14年～平成18年 中小企業診断士試験委員（中小企業庁）
平成15年 情報館の相談事業・閲覧事業の今後のあり方に関する委員会 委員
（INPIT・旧工業所有権情報館）
平成16年～平成17年 特許侵害警告模擬研修のシナリオ作成委員会 委員長
（INPIT・旧工業所有権情報館）
平成18年 特許侵害警告模擬研修講師（INPIT・旧工業所有権情報館）
平成21年 「中学校向け知的財産研修事業」選定委員会 委員長
（特許庁総務部企画調査課）
（現在） 国土館大学 知的財産法学研究科 客員教授

賞

平成14年 黄綬褒章（弁理士業務功労）
【日本弁理士会】
平成7年 弁理士会特別功労表彰

平成 12 年 弁理士会特別功労表彰
平成 15 年 日本弁理士会永年功労表彰
平成 17 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 20 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 21 年 弁理士制度 110 周年記念式典特別功労者表彰
平成 22 年 日本弁理士会研修講師功労表彰
平成 25 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 30 年 日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して

秋の叙勲に際して受章の榮譽に浴することができ、これも皆様のお陰と深く感謝しております。特に、日本弁理士会、特許庁、経済の皆様のご尽力によるものと、深く感謝申し上げます。

40 数年ひたすら走って参りました弁理士人生、苦難もありましたが非常に幸運な日々であったと感謝しております。これもひとえに弁理士の先輩方、後輩方、クライアントの皆様方等の心暖まるご支援、ご協力のお陰と感謝する次第でございます。

振り返りますと、平成 19 年度に日本弁理士会の副会長を仰せつかり、日本弁理士会会長の中島淳先生の下に同期の副会長の先生方、執行役員の方々、事務局の皆様方、多くの方々の助けを借りながら、会務の仕事を全うすることができました、この場をお借りしまして、関係者の皆様に深く感謝致します。

近年、世界の情勢が目まぐるしく変化する中、弁理士業界にも変化の波が押し寄せて来ております。多くの企業からは、弁理士に対し、より高い技術の習得と、既存の製品とは異なった新たな製品への技術開発に対するサポートが求められ、そのような要求に対し十分な体力を付けることが課されております。

今後とも、弁理士業務の発展のため、微力ながら尽力させて頂く所存ですので引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



旭日双光章（弁理士業務功労）

かわくぼ しん いち
川久保 新 一

学歴・職歴

昭和 45 年 武蔵工業大学工学部電子通信工学科卒業
昭和 45 年～昭和 50 年 株式会社ゼネラル
昭和 51 年～昭和 54 年 吉村特許事務所
昭和 55 年～昭和 57 年 八田国際特許事務所
（現在） 川久保特許事務所

弁理士会歴

昭和 56 年 弁理士登録（8744 号）
平成 元年度 福利厚生委員会 副委員長
平成 4 年度～平成 5 年度 弁理士会常議員
平成 5 年度 常議員会第二委員会 副委員長
平成 6 年度 会誌委員会 副委員長
平成 7 年度 途上国人材育成協力委員会 委員長
平成 9 年度 「弁理士業務の実態及び意識調査」支援委員会 副委員長
平成 13 年度 日本弁理士会副会長
平成 14 年度～平成 15 年度 研修所 副所長
平成 15 年度 特定侵害訴訟代理制度対応委員会 委員長
平成 15 年度 次年度会務検討委員会 委員長
平成 16 年度～平成 17 年度 日本弁理士会執行補佐役
平成 17 年度 予算資料準備委員会 副委員長
平成 18 年度 関東支部 副支部長
平成 18 年度 関東支部施行準備委員会 副委員長
平成 18 年度 次年度人事検討委員会 委員長
平成 18 年度～平成 19 年度 知的財産支援センター 副センター長
平成 19 年度 関東支部 副支部長
平成 20 年度 関東支部 支部長
平成 21 年度～平成 22 年度 関東支部 副支部長
平成 29 年度～平成 30 年度 日本弁理士会常議員
令和元年度 日本弁理士会監事

懇談会等

平成 11 年 日本弁理士会と特技懇との懇談会 委員

賞

平成 9 年 弁理士会特別功労表彰
平成 14 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 16 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 18 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 19 年 日本弁理士会永年功労表彰
平成 20 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 21 年 弁理士制度 110 周年記念式典特別功労者表彰

受章に浴して

令和元年秋の叙勲の栄誉に浴し、身に余る光栄に存じます。これもひとえに皆様方のお陰と深く感謝申し上げます。

知財の世界に入ったきっかけは、法律と技術の両面を必要とすることに魅力を感じたからですが、気が付くと 40 年以上の歳月が流れました。

弁理士会副会長をしていたときに、付記弁理士制度創設に関与し、その後、付記弁理士試験に関する能力担保研修の準備段階で、研修所副所長として弁理士の

先生と何回も打ち合わせしたことを思い出します。弁理士が弁護士と一緒に侵害訴訟の代理人として活躍できる制度が今後も一層機能することを祈っています。

全国支部組織化にも関与し、関東支部設立に対して当時は大きな反対がありました。本会が東京にありそこに関東支部をつくることは屋上屋を重ねることであるとの理由でした。しかし、関東支部が設立され、地域に密着して活動を積み上げると、各方面から期待の声が大きくなってきました。元関東支部長としても喜ばしいことです。

業務を遂行するには体が資本との思いから、15年程前にジョギングを始めました。10年前に1年間1000kmを走ることができ、このペースを現在も維持しています。

知的財産制度の発展に今後も精進し、微力ながら社会に貢献したいと思います。ご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



瑞宝小綬章（経済産業行政事務功労）

いし い よし お
石 井 良 夫

学歴・職歴

昭和 46 年 横浜国立大学工学部化学工学科卒業
昭和 48 年 横浜国立大学工学研究科（修士課程）修了
昭和 48 年 特許庁入庁
昭和 52 年 特許庁審査第四部審査官（応用無機材料）
昭和 62 年 特許庁審判部審判官（第 19 部門）
昭和 63 年 特許庁審査第一部分類審査官
平成元年 特許庁審査第四部審査官（医療）
平成 5 年 特許庁審査第四部主任上席審査官（化学工学）
平成 10 年～平成 13 年 裁判所調査官（大阪地裁，大阪高裁）
平成 13 年 特許庁審判部審査長（第 17 部門）
平成 16 年 特許庁退官
平成 16 年 藤野特許事務所
（現在） 特許業務法人もえぎ特許事務所

弁理士会歴

平成 16 年 弁理士登録（13390 号）

公職

平成 15 年～平成 16 年 弁理士審査委員（試験委員）

受章に浴して

令和元年秋の叙勲に浴し、身に余る光栄に存じます。これもひとえに、特許庁、日本弁理士会をはじめ、皆様方のご指導の賜物と深く感謝をしております。私が特許庁に入庁した昭和 48 年は、高度経済成長の真ただ中で、大気や水質の汚染が社会的な問題となり、環境庁（現環境省）の設立など、政府も本腰でその規制に乗り出した頃でした。私が担当したのはまさにその環境関連技術で、これらの技術は従来技術が少なく、審査をするには分類表で関連しそうな技術を調べ、その担当審査官の審査室まで出向き、先行技術を教えてもらうという手間のかかる審査を余儀なくされました。しかし、そのことで多くの審査官と面識ができ、教えてもらった技術的知識は、その後の審査官生活にとって大変役に立ちました。また、これらの技術開発に各社が力を注いだ結果、企業の担当者と面談し議論する機会も多く、出願人が特許庁の審査官に対しどのようなことを望んでいるかを肌で感じることができました。さらに、平成 10 年から 3 年間、裁判所調査官として勤務しましたが、この間、審理期間の劇的な短縮化や、最高裁の重要な判決（均等論、当然無効など）があり、これらの変化を現場で体験できたことは非常に幸運だったと思います。今後は、このような経験や知識を生かし、特許法の目的である我が国の産業の発展にすこしでもお役に立てればと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。



瑞宝小綬章（経済産業行政事務功労）

もり
森

のり
則

お
雄

学歴・職歴

昭和 48 年 千葉大学大学院工学研究科（工業デザイン，人間工学専攻）修了
昭和 48 年 特許庁入庁（意匠審査部門）
審査官，基準室長，審査長，意匠課長，審判官，審判長を歴任
平成 18 年 特許庁退職
平成 18 年 専特許事務所 意匠部長
（現在） モリデザイン特許事務所（特許業務法人はなぶさ特許商標事務所）

弁理士会歴

平成 18 年 弁理士登録（14623 号）

公職

平成 20 年 東京理科大学専門職大学院非常勤講師
平成 26 年 静岡文化芸術大学非常勤講師

受章に浴して

この度図らずも令和元年の秋の叙勲に浴し，光栄に存じております。これも特許庁在職中にお世話になりました皆様方のご厚情の賜と感謝申し上げます。

工業デザイナーに憧れて工学部に学びました。インダストリアルデザインは，造形，工学のみならず，心理生理学，社会学など広範囲な領域のクロスエデュケーションが重視され，修士課程では頭皮に電極を貼って脳波を測定したりし人間工学（最近では「感性工学」などとも）を専攻しました。

意匠権や知的財産権の広がりとお奥深さを知ったのは，'73 年に特許庁に職を得てからのことです。特許庁では，紙資料を使ったアナログ審査とペーパーレス審査の両方を経験できましたし，審査促進に向けて DR1（意匠登録 1 年化計画）という数値目標を掲げてその達成にも尽力しました。

とき恰も，工業所有権制度 100 周年。年史編纂を拜命し，懐かしい感の「万国」を冠した資料館で，初代長官高橋是清翁の「意匠保護ノ事」，日本で最初の意匠審査官「平山英三」に思いを馳せ，意匠登録第 1 号を産んだ「足利」で郷土史家のご協力により「織物縞」の実物史料を発掘できたことなど，感慨深いものがありました。

この世界に足に踏み入れて 50 年近くになりますが，意匠保護制度も近年益々広がり，変化，深まりをみせておりますので，さらに専門を究めて弁理士業を全うしたい所存であります。



瑞宝単光章 (技能検定功労)

かみ やなぎ まさ たか
上 柳 雅 誉

学歴・職歴

昭和 50 年 慶応義塾大学工学部電気工学科卒業
昭和 50 年 (株) 諏訪精工舎 (現セイコーエプソン (株)) 入社 開発部特許課
平成 26 年 セイコーエプソン (株) 常務取締役 知的財産本部長 退任
(現在) 上柳特許事務所
独立行政法人 工業所有権情報・研修館 (INPIT) 監事

弁理士会歴

昭和 62 年 弁理士登録 (9572 号)

公職

平成 16 年～平成 28 年 一般財団法人 知的財産研究所 理事
平成 21 年～平成 27 年 一般財団法人 日本特許情報機構 理事
平成 25 年～平成 31 年 日本ライセンス協会 副会長
平成 20 年～現在 知的財産管理技能検定 検定委員
平成 18 年～平成 19 年 「戦略的な知的財産管理に関する調査研究委員会」(知的財産研究所) 委員
平成 25 年～平成 26 年 「侵害訴訟等における特許の安定性に資する特許制度・運用に関する調査研究委員会」(知的財産研究所) 委員
平成 27 年 内閣府「知的財産紛争処理タスクフォース」委員

賞

平成 27 年 知的財産教育協会 表彰
平成 27 年 知的財産権制度関係功労者表彰 特許庁長官表彰
平成 30 年 厚生労働大臣表彰 (技能検定功労)

受章に浴して

この度、令和元年秋の叙勲に浴し、身に余る光榮に存じます。これもひとえに皆様方のおかげと心より感謝申し上げます。

私は株式会社諏訪精工舎 (現セイコーエプソン株式会社) に入社以来、知的財産関連の業務に携わり 44 年となります。セイコーエプソンにおきましては企業内の知的財産管理を幅広く経験させていただきました。同社退任後は弁理士として、企業の知財戦略に関する講演、コンサルティング等を通じ企業内の知財戦略の向上並びに知財人材の育成に努めてまいりました。また、その一環として国家試験の知的財産管理技能検定の検定委員を長らく務めてまいりました。この度の受章はこの検定委員を務めたことによる技能検定功労ですが、長年にわたる地味な知財関連の活動に光を当てていただいたものと考え大変感謝しています。

知財関連業務を始めたころは、まだまだ世の中でマイナーな業務で、認知度も低くあまり重要視されていませんでした。多くの皆様方のご努力により、現在では当時からは考えられないくらい認知度も上がり、重要性も認識されるようになってきました。しかしながら、知財を経営戦略に生かすという点では、欧米企業に比べまだまだ課題が多いように思います。

今後も、一弁理士として我が国の知的財産制度の普及、発展に微力ながら貢献していきたいと思っております。皆様方にはこれからも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。